

平成 28 年度第 1 回まち・ひと・しごと創生有識者懇談会
議 事 録

〔日時〕 平成 28 年 7 月 21 日（木）
13：30～15：15

〔場所〕 富里市役所本庁舎 3 階第 3 会議室

■ 出席者（順不同，敬称略）

市長	相川 堅治
（座長） 富里市商工会	寒郡 茂樹
富里市農業協同組合	根本 実
富里市区長会	沖田 健二
まちづくりコーディネーター	河田 厚子
千葉県立富里高等学校	松居 清明
千葉銀行	杉本 直樹
成田公共職業安定所	新堀 直人
富里市子ども・子育て会議	渡邊 薫
株式会社広域高速ネット二九六	渡邊 さとみ
成田国際空港株式会社	岩澤 弘

（代理出席：関口 順一）

（市職員） 市民経済環境部市民活動推進課長，教育委員会生涯学習課長，
教育委員会図書館長

（事務局） 総務部長，総務部企画課長，企画課事務局

■ 議題

- (1) 富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる指標の進捗状況等
について（資料 1-1，1-2，1-3）
- (2) 地方創生推進交付金事業について（資料 2-1，2-2）
- (3) その他

■ 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料 1-1 富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略における 4 つの基本目標
- ・ 資料 1-2 富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる『指標』・『重要業績評価指標（KPI）』の進捗状況（平成 27 年度末時点）
- ・ 資料 1-3 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業の実績評価表
- ・ 資料 2-1 平成 28 年度地方創生推進交付金制度の概要
- ・ 資料 2-2 地方創生推進交付金申請事業

1. 開会

2. あいさつ

市長よりあいさつ

3. 委嘱状交付

4. 自己紹介

5. 懇談会座長の選任

事務局

- ・ 当該懇談会座長の選任について、「富里市まち・ひと・しごと創生有識者懇談会設置要綱」第3条第2項の規定により委員の互選により定めるものとしている。互選により決定していただきたい。なお、座長選任後は、要綱第3条第4項の規定により、座長から職務代理者1名の指名をお願いする。

委員

- ・ 互選により、寒郡委員を座長に選任。

寒郡座長

- ・ 職務代理者として根本委員を指名する。

根本委員

- ・ 承知した。

6. 議題

- (1) 富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる指標の進捗状況等について（資料 1-1, 1-2, 1-3）
- (2) 地方創生推進交付金事業について（資料 2-1, 2-2）

〈議題（1）及び（2）について、企画課長より説明〉

寒郡座長

- ・ 当懇談会は、本年度第1回目の開催であり、また、新たな委員を迎えこの会を進めていくことから、改めて確認する。
- ・ 当懇談会は昨年度に設置され、富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、推進に当たり、専門的な見地から意見を述べることを目的としているもの。また、昨年度は、主に総合戦略の策定に対し意見を述べるとともに、提言書を提出した。
- ・ 今後は、少子高齢化や経済の低迷といった現在の状況から、今後進む人口減少に歯止めをかけるため、雇用の創出や子育て環境の整備など、市の活性化を図る市の取組に対し広く意見を述べていきたい。
- ・ 本日の議題として、総合戦略に掲げる指標等の進捗状況、地方創生推

進交付金事業について事務局より説明があった。

- ・ 以上を踏まえ、各委員より意見等を伺いたい。

沖田委員

- ・ 人口減少問題については、懸念はあるものの、この富里に愛着をもっている住民は多くいると思われる。
- ・ ついては、市の活性化を図るため、成田空港や旧岩崎家末廣別邸などを活用し、市の活性化を図ることが重要。
- ・ 本市は、空港開港に伴い急激な人口増加によって村から町へ、そして市へと発展してきたが、富里で生まれ育ち、今、高齢となった方々を尊重し、行政として各種の高齢者施策を実施していくことも必要である。

河田委員

- ・ 本市に居住し約 23 年となる。また、居住している地域が市の北部であることから、転入して間もない頃は成田市を生活圏としていたが、富里市役所との関わりや現在のまちづくりコーディネーターといった立場から多くの市民と接し、この富里に暮らす市民の愛着心を知るとともに、市の持つ魅力や可能性に気付かされている。
- ・ 懇談会委員として、また、まちづくりコーディネーターとして、富里で暮らすことの楽しさを発信するとともに、様々な取組へのサポートをすることにより、市を盛り上げていきたいと思っている。

根本委員

- ・ 昨年度に引き続き委員を仰せつかった。まず、個人的な感想となるが、昨年度の会議では、私は、富里生まれ、富里育ちであることもあり、転入者など様々な方からみた富里市への思いなどを知ることができ、非常に参考となった会議であった。
- ・ 事務局より説明のあった指標等の進捗状況の中で、新規就農者数等について農業協同組合会長として意見を述べる。
- ・ 新規就農者については、以前は、農家に生まれ跡取りとして新規就農するケースがほとんどであったと思うが、最近では、数ある職業の中から自分の意志で農業を選択するケースがみられる。また、基準値について、平成 26 年度、7 人としているが、当該年度以前はおおむね 10 人程度で推移してきた。ついては、委員として、農協として、農業に魅力を感じ就農するケースを想定した取組を実施していきたい。
- ・ 認定農業者数については、市町村ごとに認定基準を設けている。単純に言ってしまうと、この基準のハードルを下げることで認定者数が増えることとなる。なお、この基準の一つに経営規模や所得額があり、特に、兼業農家が多いことから、この基準によって認定を受けられない農家もいるものと思われる。ついては、農業振興を図る策として認定農業者を増やす場合、この認定基準の見直しの検討も一つの案かと思う。
- ・ ふるさと産品については、私も、ふるさと産品育成協議会に携わっており、いろいろと試行錯誤し推奨しているところ。今後も、幅広く意見を吸い上げながら検討、推進していきたい。

- ・本市の基幹産業の一つは農業であり，スイカや人参の生産，出荷が盛んである。今後も，更なる振興を図っていくことはもちろんのこととして，本市には，いわゆる老舗といったものも多く見当たらず，近隣市町ではそれなりに老舗があり，製造や販売において多くの雇用を生み出している。本市でも，こういった老舗となるものを生み出すことで，これから整備を進めていく旧岩崎家末廣別邸等の観光拠点との相乗効果もあると考える。

松居委員

- ・富里市は住民全体が，まちづくりに非常に協力的である印象がある。これまで様々な県立高校に勤務し，いろいろなまちを見てきたが，富里市では市内の自治会などの団体，もちろん市役所も含め様々な団体等が連携している強みを感じる。こういった連携を基に，各取組を外に発信していくことにより，市の交流人口や定住人口を呼び込めるものとする。
- ・先日の参議院議員選挙において期日前投票所を富里高校で開設したところ，この期日前投票を含む投票率は，本校における富里市の有権者の内 68%が投票し，また，市外の有権者となる生徒は 35%が投票に行ったようです。つまり，市との連携により本校の有権者となる生徒に対する選挙啓発効果は大きかったものと思われる。もちろん，市内や市外の生徒への選挙啓発として選挙期日のポスターの掲示など行ったことの効果もあったと思われ，こういった連携による効果を見据えた取組の重要性を感じた。
- ・ついては，こういった情報の発信効果は非常に有意義であり，先ほど述べた富里市の魅力を発信することの効果も計り知れることから，市内における様々な連携による取組を推進するとともに，情報として発信していくことが重要であるとする。

杉本委員

- ・千葉銀行に勤務しており，異動により富里支店に赴任となった。また，富里支店は初めての勤務先であり，自宅も市外にあることから，富里への理解はまだ浅い。ただ，プライベートでは，買い物で富里インターチェンジ周辺を利用している。こういったことから，富里市に対する感想に近い発言となってしまうが御理解願いたい。
- ・富里には駅がなく，市の玄関口は富里インターチェンジになると思う。このインター出口の正面にある未利用地が目についてしまう。また，鉄道駅がない富里市においては，車以外の交通手段はバスになると思う，更なるバス路線の充実が必要と思う。
- ・例えば，木更津市では，都心等との高速バスルートの発達から，バス停を囲むように住宅街ができるといった事象もみられる。
- ・ついては，観光拠点の整備を進めていく上で，現在の東京駅との高速バスターミナルの活用を図るためにも，この高速バスの市内の回遊も必要と思う。また，通勤や通学等の日常的な交通需要への対応として，路線バスの更なる整備も検討する必要性を感じる。
- ・また，仕事上市内を周ることもあり，田畑の広がる農村地域の風景の素晴らしさは富里の強みであると思う。

- ・ 余談となるが、個人として、毎年、北アルプスの乗鞍岳で登山をしている。数年前に訪れたとき、現在は合併により松本市となる波田町にてタクシーに乗車したときのことである。この波田町は、スイカの産地であることから、私が千葉から来たとは伝えていなかったが、タクシーの運転手が「このスイカは、富里よりもおいしい。」と自慢しており、富里スイカの知名度が全国的なものであることを実感したことがある。また、約2週間前にTBSのテレビ番組で富里スイカが紹介され、有名なパティシエにより調理されていた。こういったことから、富里スイカのブランドを活用した取組の必要性を感じる。
- ・ 一方で、旧岩崎家末廣別邸の観光拠点としての活用について、隣接する成田市には多くの観光資源があることから、連携した取組も一つの策と思われる。

新堀委員

- ・ 議題1の指標等の進捗状況として、有効求人倍率について事務局より説明があった。補足として、私から述べさせていただく。本年5月の有効求人倍率は、全国で1.36倍まで上昇している。千葉局内で1.13倍、成田管内で1.17倍となっている。このことから、これは全国的な傾向ともいえる。
- ・ 総合戦略において求める若者の地元への定着は、地元の雇用、また、先ほど根本委員からの発言にもあった新規就農が深く関わってくるものである。
- ・ 参考数値としてお示しできるものとして、ハローワーク成田における登録者数は平成26年度で約1万6千人、内富里市は約1千6百人である。また、この富里市内の登録者が市内に就職した数は約350人であり、地元雇用から地元定着を進めるためには、まだ地元求人が少なく、人口の流出の原因の一つとなっていることが考えられる。
- ・ ついては、地元の雇用を生み出し、私どもハローワーク成田としても、地元雇用をアピールする場面において協力させていただく。もちろん、管轄区域としては、成田市、佐倉市、印西市、富里市、印旛郡及び芝山町であり、この管轄区域全体における各市町における地元雇用のアピールとして協力させていただく。

渡邊薫委員

- ・ 子ども・子育て会議の委員であり、また、浩養小学校に勤務している立場から発言させていただく。
- ・ 浩養小学校は、市の南部に位置し、優良な農地に囲まれた環境に立地している。また、本校では子供たちの豊かな心を育み、ふるさとである富里を愛するといった心情を育てる、体験型の教育を強く推し進めている。
- ・ こういった環境に育つ子供たちの作文に書かれた内容を紹介すると、勤め人であった父が農業に転職し、この父がつくる大根、カブ、人参など、これらの野菜は日本一おいしく、私は必ず父の野菜作りを覚え、跡を継ぐとありました。また、メロンの栽培農家の児童は、祖父のつくるメロンの素晴らしさを記しており、きっと、この児童も祖父の営む農業を引き継ぐものと思う。

- ・学校教育において、富里市の基幹産業である農業の素晴らしさを感じ、将来の農業を支える若者を育てていくことも教育であると思っている。
- ・また、市内の別の小学校であるが、ボランティアの方々の協力により、ホテルの鑑賞会をしたこともあった。この鑑賞会での、子どもや父兄の感動した姿を見て、こういった自然あふれるふるさととして、富里への愛着を抱く取組の必要性も感じる。
- ・総合戦略に掲げる、基本目標①に「働きたい」「住みたい」がかなうまちづくりとあり、教育者としても、以上述べた教育をとおして取り組んでいきたいと思っている。
- ・旧岩崎家末広別邸を核とした交付金事業について説明があった。この事業で連携を図る岩手県雫石町には、今年の夏休み期間を利用し、小学生がこの雫石町を訪れるといった取組もある。こういった、いろいろな担当がそれぞれの取組を実施し、また、これらの取組の連携が図られることによって、非常に大きな事業効果が得られるものと考えている。
- ・これまで発言された委員の方も、情報発信について述べられている。この情報発信として、市の取組の一つに成田空港周辺9市町での広域的な取組による「るるぶ」の発行がある。私自身の感じた体験として、今年のスイカロードレースのスタッフとして携わった際、ロードレース会場において配布していた「るるぶ」について、多くの若者が手に取り、持って行く姿を見て、また、富里市をアピールするキャラクターである「とみちゃん」への反応を見ると、情報発信やアピールの重要性を感じた。

渡邊さとみ委員

- ・個人的な話となってしまうが、私自身は過去に十数年間富里の住民であった。親類の何人かは現在も富里市におり、富里市で暮らす親類や他の市民の会話等から感じることで、市外に出ていこうとしない印象がある。これは良い意味として、富里市への愛着があるが故と思う。ただし、子育て支援や便利さでは他の自治体と比べ劣っていることもあるかと思うが、市への愛着心をもって育つといった意味で、富里市は何か引き付けるものがあると感じる。
- ・また、この度、本懇談会の委員を務めるに当たり、社内で私が所属する部署では若い女性スタッフが多く、この中には富里市に住んでいる者もいることから、富里市に求めることを聴いてみた。すると、子育て支援や公共交通への不便を感じるといった意見が多かった。ただし、先ほど述べた私の親類等と同じく、富里市への愛着心から、不便を感じつつも富里市に暮らしている印象を受けた。
- ・については、富里市への定住を促進していく上で、他の自治体との比較になってしまうが、子育て支援や公共交通網の整備を進める必要があり、こういった富里のマイナス面を克服することにより、富里の持つ魅力を更に増幅させることができると考える。
- ・また、若い女性スタッフとの会話から、ご当地キャラクターなどに魅力を感じていることがよく解る。については、今後の旧岩崎家末広別邸の活用においては、市民からの公募等も検討に含め、マスコットやキャラクターなどを利用したPRを行っていてもよいと思う。
- ・(株)広域高速ネット二九六に勤務していることから、市の情報発信の面

ではいろいろと協力させていただきたい。

関口 氏（岩澤委員 代理）

- ・ 空港の更なる機能強化として、現在、第三滑走路等の議論が交わされているところ。この機能強化の一つとして、空港と周辺市町の関係における地域振興を大きなテーマとしているところ。
- ・ 平成 27 年度事業の実績評価対象事業にあった成田空港圏観光振興連携事業において、空港周辺 9 市町の連携事業として発行された「るるぶ」がある。これは、空港周辺 9 市町による地域振興策検討チームが中心となって行われた事業であり、こういった枠組みにより地域振興が図られていくことの重要性を感じる。
- ・ この「るるぶ」は、非常によくできている情報誌であり、資料記載の地方創生に非常に効果的であったとう評価に同感する。この情報誌を作成するに当たり、「るるぶ」といった知名度のある編集社を選択し、内容の充実度も申し分ないと思う。また、空港内でも非常に好評を得ていることから、今回の 1 回で発行を終了してしまうことは残念であるとも感じる。
- ・ この地域振興策検討チームといった空港周辺市町の連携による取組は、今回の観光情報誌の発行といった実績を持たれたことから、今後も連携による地域振興を図ってもらいたい。また、観光施策として取り組むに当たっては、マイカーを利用した観光客の取り込みも一つの策と考えられることから、この連携市町それぞれの強みを生かし、広域的な観光ルートの設定も重要であると考えます。
- ・ なお、推進交付金事業として、（仮称）旧岩崎家ゆかりの地広域文化観光協議会の設立も視野に入れていることから、成田空港、また、周辺市町との連携を模索することも重要であると考えます。

寒郡座長

- ・ 総合戦略は、P D C A サイクルにより、実施した事業の効果を検証し、必要に応じて改訂するといった一連のプロセスを実行していくもの。
- ・ 資料 1-2 にある指標等の進捗状況について、K P I として設定している（仮称）産業振興基本条例の制定及び（仮称）商工観光課の検討及び新設などは、平成 27 年度に達成していることから、今後の総合戦略を進めていく上で新たな K P I を設定し前に進むべきと思う。
- ・ 商工観光課が新設され、産業振興ビジョンや観光大綱などの策定に取り組んでいくことと思う。これらの計画等での取り組みを総合戦略における指標等として掲げて進めていくことが必要だと思う。
- ・ 子育て支援策について、富里市に隣接する財政規模の大きな市との比較がなされ、富里の足りなさが浮き彫りになるケースが非常に多いものと感じる。については、先ほど各委員の方から発言いただいたように、富里市独自の工夫をもって取り組むことにより、富里市の特色ある子育て支援として市の魅力を発揮できると考える。現在の子育て支援を担う担当の取組については、認定こども園への取組やこども館の設置など、試行錯誤されていることは理解しつつ、特色ある取組を検討し、新たな指標として設定することを望む。
- ・ 成田空港との関わりについて、この総合戦略策定時には、第三滑走路

の整備などを含む空港の機能強化についての成田空港に関する四者協議会が、設置される前の段階で提言をしている。現在、この四者協議会が設置され空港の機能強化が図られる前提で、周辺市町としての富里市の役割を明確にする必要を感じる。

- ・ 成田空港の機能強化として航空機発着回数が増加した場合、多くの雇用を生み出すものであり、この雇用の増加による定住者を受け入れる施策を打ち出していく取組が必要である。この取組を実施するタイミングは、まさに、今であると考え。富里市が魅力あるまちとなることで、人を呼び込むことができるものであり、それには、賑わい拠点の整備、子育て支援の充実、地元商工業や農業の振興などが必要と考える。
- ・ 富里市と成田空港を結ぶ導線の貧弱さは、本市の弱点であると思う。車などを利用した空港へのアクセスは、富里市の立地から有利であるものの、公共交通機関を利用したアクセスは非常に不便であることから、バス等を活用した空港への導線整備が必要と考える。

根本委員

- ・ 富里市と成田空港の公共交通機関によるアクセスの不便さは座長と同じ思いを持っている。一方で、東京都心と成田空港のアクセスは高速バス網の発達から非常に便利になっている。また、富里市内のバス路線網は、成田駅や八街駅への民間バス事業者の路線が廃止となった地域もある中で、市の事業として、さとバスなどを整備しているものの、これは原則として市内の路線網を整備するものであり、満足できるものとは言い切れない。
- ・ ついては、空港周辺9市町による地域振興策検討チームなどによる周辺地域と成田国際空港㈱の連携により、空港周辺と空港のアクセス網の整備が必要と考える。
- ・ また、富里市から東京駅までの高速バスの利便性を考えると、富里市と成田空港が結ばれることにより、成田空港と東京都心等へのアクセスが便利になる。

関口 氏（岩澤委員 代理）

- ・ 成田空港としては、これまで、東京都心と成田空港のアクセスの不便さを解消することに力を注いできた結果、現在では相当便利なアクセス網を構築できたと思う。次の段階として、空港周辺とのアクセスを強化する必要性を感じる。
- ・ 成田空港の北側のエリアになるが、成田空港と阿見町、神崎町、三浦村、稲敷市、牛久市について、圏央道を利用した高速バスの実証実験運行を今月の7月より開始している。なお、この事業は地方創生加速化交付金事業として実施しているものであり、今後は、空港周辺地域とのアクセス網を整備していく時期と考えている。なお、実際のバス路線等の整備はバス事業者等の参入なくしては成り立たないものの、成田空港や周辺市町から仕掛けていくことも必要であると思う。

寒郡座長

- ・ 富里市と成田空港とのバス路線の整備の必要性は、喫緊の課題として

取り組むべき。ただし、民間事業者によりなされるものであることは承知しており、また、新規の路線として事業者の参入を仕掛けることの難しさも解ってはいる。

- ・ 現在、市で取り組んでいるさとバス等の利用状況の印象は、高齢者が利用する福祉交通であり、福祉としての側面を強く感じる。
- ・ ついては、成田空港や旧岩崎家末広別邸などを視野に入れ、戦略的なバス網の整備を仕掛けていく必要がある、また、先ほど申し上げた空港の機能強化が図られようとしている今が、仕掛けていく絶好のタイミングであると考えている。

企画課長

- ・ 成田空港と周辺市町との公共交通網の整備について、事務局より発言させていただく。
- ・ 成田空港や周辺市町により組織される会議等に、千葉県が主体となって組織する地域振興連絡協議会や成田市が主体となって組織する成田空港圏自治体連絡協議会などがある。こういった成田空港周辺市町の首長により構成される会議等に随行している中で、富里市長からの発言として、成田空港は近くにあるものの、遠い存在であるといった内容の発言がある。
- ・ この成田空港とのアクセス整備の必要性は、本市に限った課題ではないものと思われる。また、座長の発言にもあるとおり、さとバスやデマンド交通、ほかの市町で実施しているコミュニティバスを活用しての広域的な公共交通の整備は、別の施策になると思う。こういったこともあり、地域振興連絡協議会では、今年度より、この周辺9市町全体と成田空港との交通アクセス、主にバスによるアクセスを対象とするものと思われるが、この交通アクセスの具体的な研究や検討を行っていく予定である。

7. その他

事務局

- ・ 今後、本日の懇談会の意見を踏まえ、創生本部において総合戦略の効果検証を行い、必要に応じた改訂を検討する。
- ・ 次回の懇談会は、総合戦略の改訂案や今年度実施事業の進捗状況等を議題とする予定である。

8. 閉会